

Europe Indicators

発表日: 2021年6月9日(水)

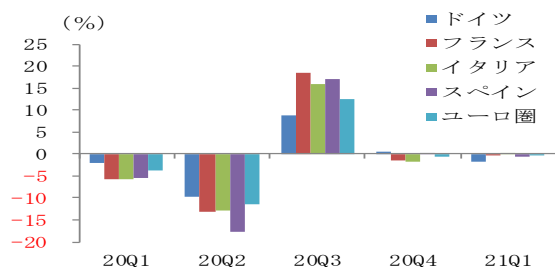
欧州経済指標コメント: 1-3 月期ユーロ圏GDP

～二番底の落ち込みはさらに浅かった～

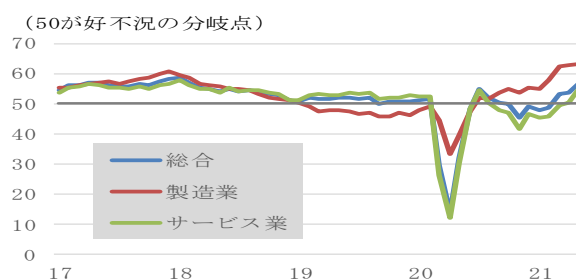
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

- 8日に発表された1-3月期のユーロ圏の実質GDP成長率の改定値は前期比▲0.3% (同年率▲1.3%) と速報段階の同▲0.6% (同年率▲2.5%) から上方修正された。それ以前の過去3四半期も0.1%ポイントずつ上方修正。国別には速報段階と比べてドイツ (速報値: 同▲1.7%→改定値: 同▲1.8%) とフランス (同+0.4%→同▲0.1%) が下方修正された一方、イタリア (同▲0.4%→同+0.1%) が上方修正された。新たに公表されたアイルランド (同+7.8%) とギリシャ (同+4.4%) が大幅プラス成長となったことが全体の計数を押し上げた。なお、アイルランドのGDPは多国籍企業の経済活動の影響で振れが大きいことが知られている。
- 新たに公表された需要項目別の内訳は、一部の国の行動制限の強化延長やドイツのVAT時限引き下げ措置終了を反映した個人消費 (昨年10-12月期: 同▲2.9%→1-3月期: 同▲2.3%) の落ち込みが全体の計数を下押しした。政府消費は同横這い。固定資本形成 (同+2.5%→同+0.2%)、在庫投資寄与度 (同+0.5%ポイント→同+0.7%ポイント)、純輸出寄与度 (同▲0.1%ポイント→同+0.1%ポイント) は景気を下支え。純輸出の内訳は、輸出 (同+3.8%→同+1.0%) が輸入 (同+4.5%→同+0.9%) の伸び率を僅かに上回った。
- 4-6月期入り後の景気は、段階的な行動制限の緩和による経済活動再開、ワクチン接種の加速による景況改善を背景に、プラス成長への復帰が見込まれる。年後半も需要復元や復興基金稼働を背景に高い成長が見込まれ、前年の反動もあるが、年間の成長率は4%台に達すると予想する。

■ユーロ圏主要国の実質GDP成長率 (前期比)



■ユーロ圏の企業景況感 (PMI) の推移



出所: Eurostat

出所: IHS Markit

■ユーロ圏GDP (前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>)

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
19/4-6月期	2.7	1.0	(6.6)	0.6	0.9	30.6	(0.4)	▲5.6	0.8	14.3
19/7-9月期	2.5	0.8	(▲4.7)	1.3	2.5	▲20.6	(▲0.7)	5.5	2.4	▲8.8
19/10-12月期	1.9	0.3	(4.6)	0.4	1.5	26.5	(▲1.0)	▲4.3	▲0.6	9.3
20/1-3月期	▲12.8	▲14.5	(▲11.7)	▲16.4	▲0.1	▲21.4	(2.2)	▲2.8	▲14.6	▲10.0
20/4-6月期	▲36.0	▲38.6	(▲36.4)	▲41.8	▲9.9	▲50.4	(▲0.3)	▲2.2	▲56.1	▲55.8
20/7-9月期	53.5	60.6	(50.4)	70.0	23.0	67.0	(▲5.7)	10.3	85.8	57.0
20/10-12月期	1.1	▲2.4	(▲2.0)	▲11.2	1.5	10.4	(1.8)	▲0.4	16.3	19.1
21/1-3月期	1.4	▲1.3	(▲1.8)	▲8.8	▲0.1	1.0	(2.8)	0.5	4.1	3.5

出所: Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

